

徳法寺

「足るを知る者は富む」

杉谷 淨

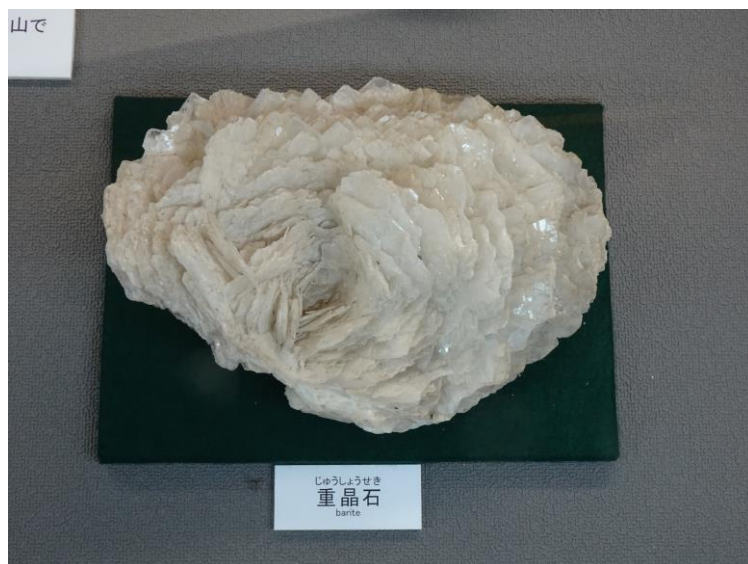
下の写真は、石川県小松市の尾小屋鉱山資料館にある重晶石です。重晶石はバリウムの原料で、かつては日本でも採取されていましたが、現在はすべて輸入によってまかなわれています。多くの場合、水晶の様な透き通った結晶として産出されますが、板状結晶が集まってバラの花のような形になっているものもあります。メキシコやサハラ砂漠で多く取れることから「砂漠のバラ」と呼ばれますが、それらは形こそバラのようですが色は茶色で、この石のように白く美しいものは初めて見ました。

山陰地方の弥生時代の遺蹟で、小松の石で作られた管玉が見つかることから、尾小屋鉱山のある小松地区が古くから石の産地であったことがわかっています。今でも尾小屋周辺は、多くの石マニアがオパールやアメジストを求めて訪れる石の聖地となっています。

尾小屋では、江戸時代には金の採取が行われていましたが、本格的な鉱山となったのは、明治時代に銅の採掘が行われてからです。この時代、有名な足尾銅山をはじめ、日本全国で多くの銅が採取されました。各地の鉱山は大いに栄え、尾小屋鉱山も五千人の人が集まり、映画館やパチンコ屋を始め商店街もあつたと言います。一方で、周辺の山々の森林は、鉱毒（亜硫酸ガス）により枯れはて、工夫たちの健康被害も深刻なものになりました。日本最大の銅山であつた足尾銅山では、鉱毒によるカドミウム中毒による死者・死産が、推計で一〇六四人にもおよんでいます。尾小屋銅山でも、鉱煙被害により、製錬所周辺の山は樹木や草が枯死して、岩石が露出していたと言います。

青銅の原料である銅は、人間が最も早く利用した金属の一つで、今でも生活に欠くことのできない金属です。しかし、その金属を手に入れるために命を犠牲にし、住環境までも破壊してしまつたのでは元も子ありません。

この様に、幸せになるためにしていた努力が、いつの間にか不幸をもたらしてしまうという事柄は、銅の採掘に限った話ではありません。犯罪や戦争さえも、幸せを求め続け結果、行きついてしまうものなのです。すべての原因が欲であることは間違いありませんが、欲が無くなつてしまつては生きる意欲もなくなつてしまいます。大切なのは、老子の言葉にある「足るを知る者は富む」という事です。これは元々仏教の言葉なのですが、人間の欲には際限がないということなのです。



成人男性の手のひらほどの大きさがあります。

肥大化した欲に振り回されてしまつたために、尾小屋は生き物が住めないような山になってしまいました。その尾小屋鉱山も昭和四十六年に閉山となると、翌年から石川県によって緑化事業が開始されました。岩を爆破し、その後に土で覆い、植物の種子を散布することで、現在では樹木が生い茂り、野生動物も多く生息する野山へと再生しています。山域一帯の道は散策道（尾小屋プロムナード）となっていますので、もしかしたら、美しい石を見つけることができるかもしれません。ささやかな欲を持ちながら、自然の美しさを堪能してみたいかがですか。

阿修羅の趣

杉谷 伊吹

皆様こんにちは、日々如何お過ごしでしょうか。

同じような毎日を生きていくつもりでも、環境も自分自身も何かしら変化してゆくものだと感じるこの頃です。私もいよいよ二十代の終わりが見えてきて、学生時代と比べると幾分か周囲との付き合い方が落ち着いたものに変化してまいりました。それはつまり互いの落ち着ける距離感を測り、安定した状態を保つことが上達したとも言えます。しかし悲しい哉、利己的な心が相手を害さないように、常々心がけて一步引いておかなければならないとは。そして、その脆く不完全な壁は、ひとたび心が不安定になればたやすく崩れ去り、時に人間の醜い本性を曝け出します。そんな己と付き合って生きていかねばならぬという事が、いよいよ人生の課題として見えてきたところであります。今回は、私が特に注視する人間の悪性である「攻撃性」について少し考えてみたいと思います。

まず、「攻撃性」と言っても一括りにはできません。大まかに分けて「能動的攻撃」と「反応的攻撃」の、どちらの属性であるのかを考える必要があります。「能動的攻撃」というのは、攻撃行動を手段として自分の利益や欲望を追求するという傾向のもので、基本こちらは怒りを伴いません。対して「反応的攻撃」は、脅威や害を感じた対象から自己

を守ろうとして、相手に危害を加えるという傾向のもので、基本こちらは怒りを伴います。いずれの属性にしる、行動としての表れ方は多岐に渡り、言葉・態度・暴力・いじめなど様々です。

どちらも厄介な性質には違いありませんが、制御・抑制の難易度から考えると、「反応的攻撃」はより御し難いように思えます。周囲の刺激が直接起点になりやすく、また受け身の視点から発生することからも自分のペースを崩されがちです。怒りによって冷静さも損なわれ、平常思考とは言えない状態に陥ります。そうして被害者の心情で暴走し始めるので、過度な攻撃であっても「やりすぎ」だと自覚することは難しいのです。

近年よく耳にする「自分が正義だと思ったとき、相手を傷つけることをためらわなくなる」という言説とも重なっているように思います。人間が本能的にそういった思考の過程に入り易いのだとして、そのことを分かっていたとしても改めるのはやはり非常に難しいでしょう。後から、心の内面を注視することで反省する、というのが関の山ではないでしょうか。

我が身に具わった「攻撃性」、それが本能によるものか煩惱によるものかは定かではありませんが、なんとも御し難いものです。なるべく心穏やかに安定して生きていければ良いのですが、そうはいかない場合は幾度も訪れるものだと思います。そんな仕方ない部分も愚かなる我が人生なのだと思います。生きてゆくしか道はないようです。



のとじま水族館のエイ。数種類のエイは尻尾に尾棘（びきよく）という毒針のトゲを持っており、可愛さに反してなかなか危険である。そして顔に見える部分は鼻の孔と口で、目は裏側である上部にある。本来は海に棲息しているが、近年は多摩川などに遡上しており、釣り人がトゲを踏んで怪我をするなどの被害が出ている。

エイは全身の骨格が軟骨で構成されている軟骨魚類に属しており、サメと同類である。

本の紹介

魔法の夜

杉谷 登紀子

作… ドミニク・マルシヤン

絵… アルブレヒト・リスラー

訳… 木本 栄

出版社 講談社 二〇〇一年

クリスマスの絵本はたくさんありますが、最もお薦めしたい一冊です。

冷たい風の吹くクリスマスの夜。どの家にも明る



くろうそくがともされ、通りを歩いている人はみな、家路を急いでいます。その中でただ一人、住む家もなく歩いていく老人がいました。その後を追うように歩いて行くのは、一匹の小さな白い犬。犬がつけている首輪には金色の星が光っています。

老人はその犬に気が付くと、
「おや、どこからきたんだい？ おまえもひとりなのかい？」と呼びかけます。

雪の中、もみの木の下で、老人と犬はひとやすみをします。少しのパンを分け合い、クリスマスの夜だからと、老人は昔から知っている物語を犬に聞かせてあげました。それから、静かに歌も歌ってあげるのでした。

風が冷たくなり、あまりの寒さから、老人と犬は近くの古い小屋の中に駆け込みます。静かに夜が更け、白い犬は、自分が魔法使いであることを老人に告げます。

「親切にしてくれたお礼に、あなたの願いをかなえてあげましょう。」

老人はすぐに答えます。

「わしは、昔から、犬の友達が欲しかったんだよ。」と。

それを聞いた魔法使いは、長い間黙っていました。

やがて・・・魔法使いは、金色の星の付いた首輪をはずします。魔法の力を捨てて、老人の友として

生きることを決めたのです。

次の日、夜明けの町を老人と犬は一緒に歩きだします。

もし、私が老人だったとしたら、何を願うでしょうか？ そして、私が魔法使いの犬だったら、老人の願いを聞いてどうするでしょうか？ 老人は魔法使いにもっと違うお願いもできたでしょう。そして、魔法使いは魔法使いのままにできることもできませんでした。金色の星のついた首輪を外すまでの長い時間に、決心の深さを感じます。

後書きによれば、作者のドミニク・マルシヤンは、作家ではなく、フランスの歌手でした。彼が、20才の時に作った歌を絵本にした作品だったので

1972年にこの歌は発表され、多くの人々を魅了しました。歌に登場するリトンという人物は、実在の人物であり、かつて、犬をつれて南フランスを放浪しており、ある寒い夜にマルシヤンのもとに身を寄せたことがあったといえます。

マルシヤンは1989年に37歳の若さで亡くなりました。この作品は、彼のこの歌を再びこの世に伝えたいと願う人々によって、絵本としてよみがえりました。フランス人のイラストレーター、アルブレヒト・リスラーの繊細で美しい色鉛筆画も味わっていただけだと思います。

徳法寺からのご案内

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺住職 杉谷淨

心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて、真宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いております。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きします。相談は無料です。予約も必要ありません。相談内容は一切外に漏れることはありませんので、お気軽にお訪ねください。

サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サンガ茶話会」を開いております。座談形式となっております。僧侶やその場に集まった方々とお話しませんか。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい話がある方はお気軽に参加してください。他の参加者の話を聞いていただけでも構いません。参加は無料です。予約も必要ありません。出入りも自由ですので、途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶とお菓子を用意してお待ちしておりますので、お気軽にご参加ください。

十一月 鎌倉仏教 十一 親鸞以後の浄土真宗
(十二月から二月までは冬季休みとなります。)

予定より大幅に遅れながら今年最後の仏教講座となりました。親鸞に関する常識も、多くの研究者の努力により、この数十年で大きく変化しています。浄土真宗に限らず、宗祖や教祖と言われる方々は、もっぱらその方々を祖とする教団によって語られてきました。このために、祖師方は教団にとって都合の良い存在へと作り替えられてきたのです。それが近年、歴史家の方々により、より客観的な視点でとらえ直されるようになってきました。このような歴史の再考察はまだ始まったばかりですので、この後も大きく変わる可能性があります。現状でも十分刺激的な状況にあります。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

TEL 076(241)5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>

令和五年

年忌法要のご案内

- | | |
|---------|----------|
| 一周忌法要 | 令和四年死去 |
| 三回忌法要 | 令和三年死去 |
| 七回忌法要 | 平成二十九年死去 |
| 十二回忌法要 | 平成二十三年死去 |
| 十七回忌法要 | 平成十九年死去 |
| 二十五回忌法要 | 平成十一年死去 |
| 三十三回忌法要 | 平成三年死去 |
| 五十回忌法要 | 昭和四十九年死去 |